

かだ便り/滋賀県より <http://www.pref.shiga.lg.jp/chiji/nikki/index.html>



平成 26 年(2014 年)1 月 26 日(日曜日)

いつもはグリーンを貴重にしたお衣装を着ておられますが、この日は Com aqua に合わせて下さったのでしょうか。ブルーの衣装で登場の嘉田知事でした。食い入るようにどの話にも熱心に聞いておられたのが印象でした。もっと聞きたいと反響が大きかったのもうなずけます。この日のキーワードは「近い水 遠い水 そして サンライズ」(事務局：河合)
(以下は“かだ便り”の日記から引用)

午後は京都市に移動して、一般社団法人 Com aqua 設立記念シンポジウム「水の環～つながり はじまる～」に出席。Com aqua は、どのように水と付き合っていけばいいのかを水のように集まって考え、つながり、行動していく場として、京都大学大学院 地球環境学堂の渡邊紹裕教授が中心となって立ち上げられました。本日のシンポジウムでは、まず、「活動紹介と連携トーク」として、滋賀の水土里ネット愛知川沿岸、針江生水の郷委員会をはじめ、8つの団体の活動報告。続いて、日本水フォーラム代表理事の竹村公太郎さんから、「世界の水 日本の水」と題してご講演をいただきました。

その後、“びわことみやこ～さらにつながる”として、門川京都市長と私が講演。門川市長のご講演では、一般の方に引き水をしていただいたところ、琵琶湖の水を浄化した京都の水道水がミネラルウォーターに比べ評価が高い、というお話もご紹介くださいました。琵琶湖水源保全の努力に感謝の言葉もいただきました。また琵琶湖疏水の観光ルート化も前向きに検討いただいていること、ご紹介いただきました。私からは、「今だから伝えたい水の価値-近い水 遠い水-」と題して、先に竹村先生からご提示のあった「日本の近代化と流域の崩壊」の問題について、琵琶湖の水と暮らしのかかわりの変遷をご紹介しながら、より具体的にお話する。まとめのパネルディスカッションでは、竹村先生、Com aqua の理事長とともに登壇。針江のかばたでの隣近所の水の使い回しなど、水とともにある暮らしの中ではぐくまれた「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」という心が、琵琶湖・淀川の流域全体に広がることを期待し、関西広域連合などで上下流連携を提案していること、お話しさせていただきました。

(かだ)

嘉田知事有難うございました。